

支 援 事 業
報 告 集



愛芸アシスト基金

2022
年度

ご賛同いただいた皆様へ

2022年度 愛芸アシスト基金 支援事業日程表

日頃は愛芸アシスト基金にご支援を賜り、まことにありがとうございます。

また本学の展覧会や演奏会にも足をお運びいただき、心より御礼申し上げます。

本学は半世紀以上にわたり、この中部、東海地域の芸術文化の発展に寄与すべく尽力してまいりました。

これまでに美術、音楽の両分野より、アーティストや演奏家、研究者、教育者など、国内のみならず世界で活躍する卒業生を輩出しております。

これも県民の皆様や地域の皆様、そしてなによりこの愛芸アシスト基金にご賛同をいただきました皆様のご理解とご支援の賜物です。

本学はこれからも将来の芸術文化を担う人材を育成すると同時に、大学自らも芸術活動を通して地域に貢献していく所存です。

今後とも皆様に愛される芸術大学として、一層の努力をしてまいります。

何卒、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

愛知県立芸術大学 学長

戸山 俊樹



01

オペラ公演 歌劇《いつわりの女庭師》

令和4年12月3日(土)、4日(日)

長久手市文化の家

02

愛・知・芸術のもりから

令和4年7月～令和4年11月 計4回

SMBCパーク栄

03

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援

令和4年4月～令和5年3月 展覧会開催回数:14回

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA

04

障害者福祉支援事業としての陶芸アート

出前講座

令和4年12月26日(日)、令和5年2月22日(火)、令和5年4月2日(土)

社会福祉法人としなが福祉会 障害者支援施設 ホタルの郷

あいち・アールブリュット・サテライト展

令和5年1月31日(火)～2月5日(日)

豊川市桜ヶ丘ミュージアム

01 大学オペラ公演2022 歌劇《いつわりの女庭師》



2019年度に本学大学オペラで取り上げたモーツァルトの歌劇《いつわりの女庭師》を再び上演しました。

サンドリーナとナルドの種蒔きのシーンから始まる序曲。恋の駆け引き、鞘当て、混乱、静寂、愛の成熟を経て、終幕、サンドリーナが男性優位の社会から自立する女性をイメージするかのように、舞台には美しく気高い花が咲きました。また、キャストのみならず、愛知県立芸術大学合唱団が主体的に動き、踊り、歌い、大変華やかなステージを繰り広げました。

音楽面では、2022年度から指揮者・桑原裕介氏を大学オペラ公演の指揮にお迎えしました。長きに渡るイタリアでの活動に裏打ちされた、母国語のように操る氏のイタリア語。徹底したイタリア語発音の指導、レチタティーヴォの演奏方法の指導に、はじめはキャストの学生たちも戦々恐々だったのが、出来るようになってくると自ずと奏でる音楽まで生き生きしてきました。愛知県立芸術大学管弦楽団との作業においても、それぞれの奏者たちがメロディを積極的に奏で、豊かなアンサンブルを展開していたのが大変印象的でした。

学部3年生の女声を主体とした各セクションスタッフの学生も戻り、舞台裏も活気が戻ってきました。今回特別参加と

なった名古屋ビューティー専門学校の学生の皆さんによるメイク、舞台スタッフ、衣裳等各セクションの学生、合唱、管弦楽、教員、キャストが一体となり、盛況の中終演することが出来ました。

本学の大学オペラ公演には、上記の他にも楽器の運搬、チェンバロ調律、照明や音響の依頼、舞台進行、大道具、小道具等費用がかかるもの、また本学以外の舞台専門家のお力を借りる必要があるのですが、これらは愛芸アシストに寄附を頂いた皆様の温かい志のお陰で成り立っています。

心からの感謝をするとともに、2023年度のヘンデル《アルチーナ》公演においても引き続きのご支援を賜りますよう、宜しくお願い致します。

初鹿野 剛(大学オペラ制作責任者)



02 愛・知・芸術のもりから



名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄で開催されるコンサート・シリーズ「愛・知・芸術のもりから」は、令和4年度で13年目を迎えました。このコンサートは、各専攻・コースから選ばれた優秀な本学卒業生・修了生たちが音楽を発信する舞台となっています。若い彼らは、すでに各地で活躍は始めている演奏家たちですが、このコンサートは、彼らを後押しする重要なキャリア支援となっており、また、愛知芸大の素晴らしさを広く知っていただける絶好の機会ともなっております。

令和4年度もコロナ禍でさまざまな制約がありましたが、ピアノ、弦楽器の在学生・卒業生・修了生から計4グループが出演させていただきました。毎回満席に近いお客さまにお楽しみいただけたことに、心から感謝しております。

今後とも皆様の温かいご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

安原 雅之(音楽学部長兼研究科長)



03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援



ハルドラ・マグナスドッティル(アーティスト・イン・レジデンス)「Reproverse」展

令和4年度は、引き続きコロナの感染対策を講じながら14回の展覧会を開催しました。その内訳は以下の通りです。

(1) 収蔵品展

4月5日(火)～5月8日(日)は版画研究室開設30年を記念して「収蔵品展Ⅲ ±30:軌跡の刻印」を開催。本学優秀版画作品と歴代教員の作品も紹介しました。

(2) 卒業生個展

6月25日(土)～7月10日(日)は、油画領域修士生でノルウェー極北地域での滞在制作を続けている浅井真理子「BLIND GARDEN」展、7月15日(金)～7月31日(日)は独特の人物木彫表現の彫刻専攻卒業生松本崇宏の「UNPLUGGED」展を行いました。

(3) 教員個展・退任展

5月14日(土)～5月29日(日)は神田毎実教授による個展「KANDA TSUNEMI 光景 - 時空は飛翔する」展、9月9日(金)～10月9日(日)は、メディア映像専攻の関口敦仁教授の退任展で、HMD(ヘッドマウントディスプレイ)と脈波センサー等を用いて鑑賞する「関口敦仁展 仮想内観 君は自身の内観を獲得したか?」が開かれました。

(4) 本学名誉教授追悼展

11月5日(土)～11月20日(日)は、本学デザイン専攻に多大な足跡を残し2020年11月7日に亡くなられた磯田尚男先生の追悼回顧展「デザインは手からはじまる 愛知芸大デザインの系譜—磯田尚男—」が行われました。また2023年1月7日(土)

～1月22日(日)には、前年退任したばかりの7月に急逝された設楽知昭名誉教授の、教員・卒業生・作家ら有志による追悼展「Exhibition to remember SHITARA 設楽知昭」が開催されました。

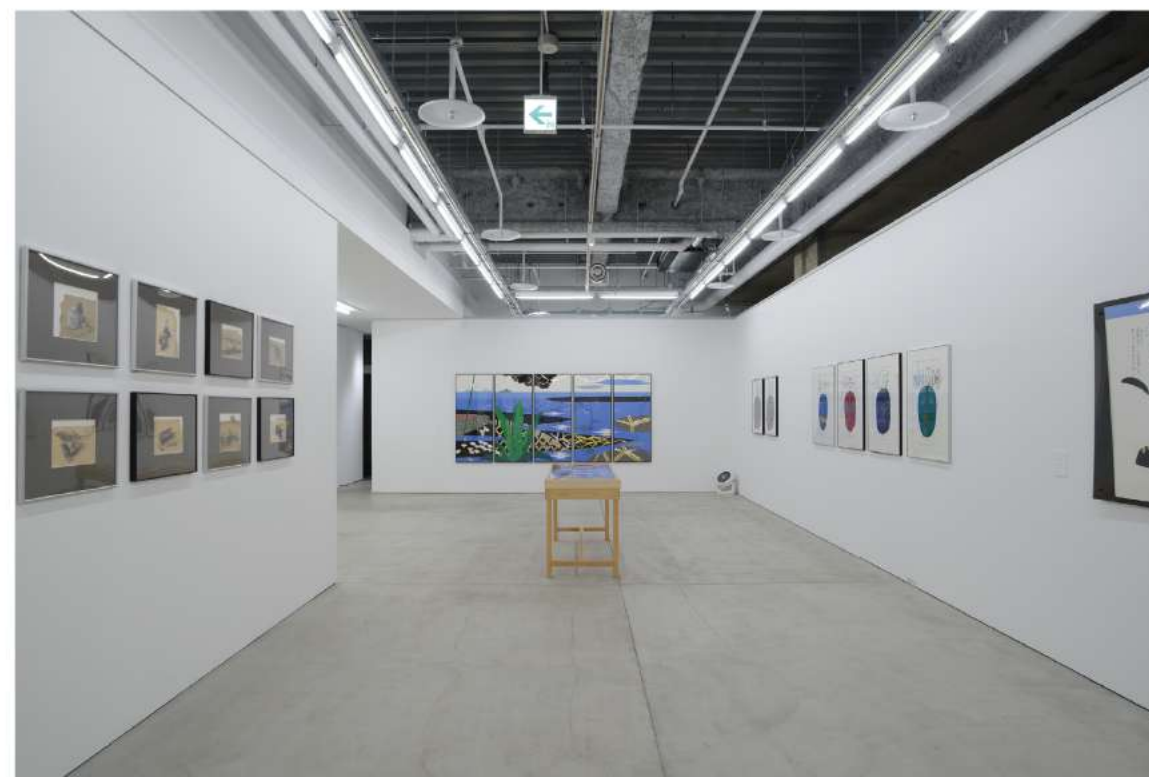
(5) 国際交流事業、アーティスト・イン・レジデンス関連展としては以下の6つの展覧会が開かれました。紙幅の都合で列挙のみとします。

6月4日(土)～6月19日(日):「水平性|水平線」展(キム・ミョンボム/ジルヴィナス・ケンピナス/村尾里奈)、8月25日(木)～8月28日(日):「Reproverse」展(ハルドラ・マグナスドッティル)、10月15日(土)～10月29日(土):「トラベル・ノート/シュトゥットガルトと愛知 2021-2022」(大崎のぶゆき、マリエラ・モスラー)、11月25日(金)～12月11日(日):ベルリン芸術大学学生(Universität der Künste Berlin, UdK)による国際交流ドローイング展「A THIN LINE "世界を説明する"」、2023年1月28日(土)～2月12日(日):「米林雄一展/李允碩展」、2023年3月11日(土)～3月26日(日):「～惑星の姿見の中に～ In the Mirrors of Planets」展。

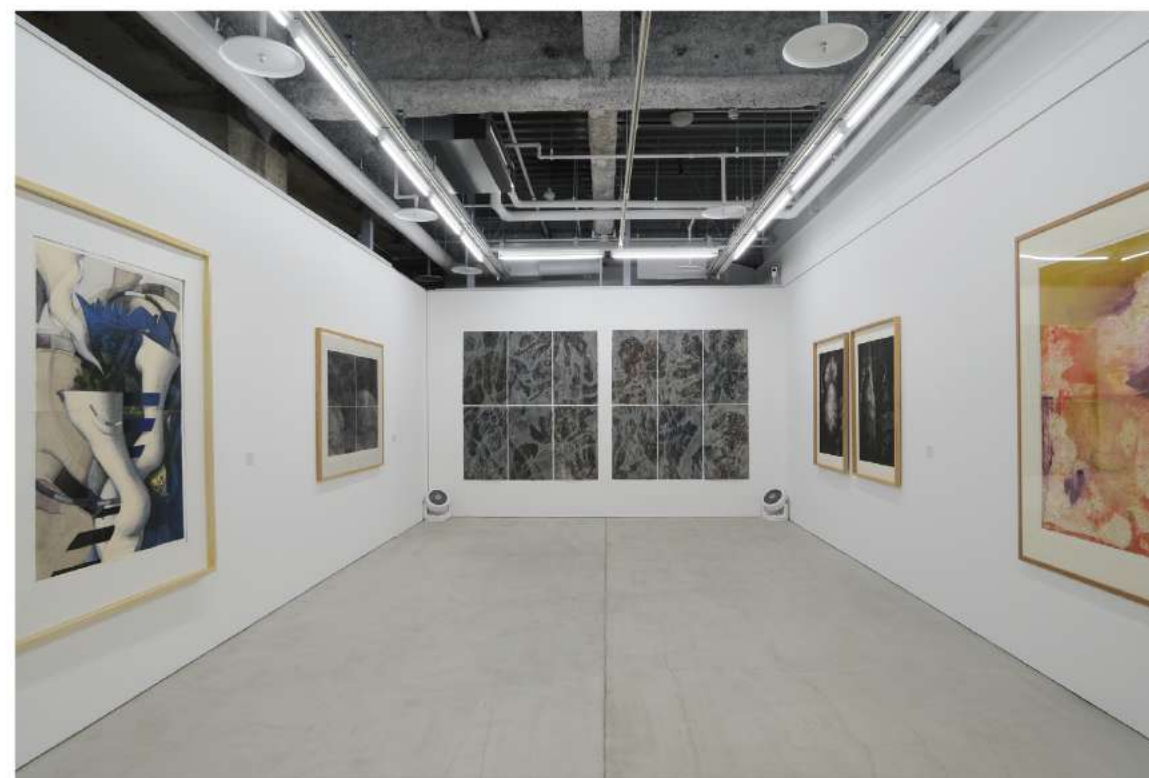
以上、コロナ禍の影響が少なくない中、サテライトギャラリーSA・KURAは令和4年度も積極的な展覧会活動を継続・展開しました。詳しい情報はWebページを参照ください。

(<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/sakura/>)

小西 信之(芸術資料館長)



磯田尚男先生追悼回顧展「デザインは手からはじまる 愛知芸大デザインの系譜—磯田尚男—」



収蔵品展Ⅲ「±30:軌跡の刻印」



04 障害者福祉支援事業での陶芸講座



愛知県障害福祉課から委託された愛知県障害者芸術文化活動支援センターから依頼を受け、愛知県芸術活動支援事業2022“出前講座”を開催しました。この活動は、県内の障害者支援施設等において障害のある方々の創作活動を応援するため、芸術系大学の教員等が講師となり障害者支援施設等を訪問して絵画や陶芸等のアート活動を支援していく活動です。

今回実施した施設では、実施予定日程中に施設内でのコロナ感染があったため、講座内容や日程を延期したこともあり年度を超えてしまいましたが、無事に3回の陶芸講座を実施しました。今期の講座では、2つの作品を制作することが出来ました。

この施設では、日常的に絵画作品を制作していたので指導されているスタッフの方々の補助もあり、参加者の皆さんには、熱心に取り組んでいただきました。切り絵技法やペン画技法で描くことを普段から楽しんでおられるようでしたので、陶芸素材においても普段の制作工程と近い方法で制作ができるように勘案しました。色粘土を1mm程度に薄く伸ばした色紙のような粘土板を手やはさみで切り抜き、その色粘土を筒形の花瓶に貼り付けるといった方法で作品を制作しました。切り絵の絵画作品のようにリズムカルな文様が表現された作品が焼き上がり、その作品は、豊川市桜ヶ丘ミュージアムで開催された「あいちアール・ブリュット・サテライト展」にて成果発表展示を行いました。

さらに、もう一点の作品制作では、原始的な野焼きを試みたいということになり、計画を進めていきました。この施設では、この講座をきっかけに“焼成窯等の設備がない施設”でも陶芸

制作を導入したいということでしたので、私の指導にも熱が入りました。3月の講座は、私は指導に参加できなかったのですが、施設スタッフで制作を行ってもらえるように、必要な道具や野焼き用に調整した粘土を事前に準備してあげました。野焼き当日には、参加者と施設スタッフの器作品(約20作品)を、もみ殻を敷き詰めた地面に並べていきました。ブロックを積み上げただけの簡易的な窯の周囲に、施設内から伐採した枝や枯葉を覆いかぶせた後、2か所から点火し、3時間程で焼成しました。焼成時に覆いかぶせた枝がやや足りなかったことから、焼成が少し不足し、焼き上がりの色が今ひとつとなっていました。今後、スタッフの試行錯誤によって、火を使ってやきものができる楽しさを広げてくれることを期待しています。野焼きを体験した時の煙や匂い、音、色、炎といった変化していく状態と、土が“やきもの”になっていくという奥深さと魅力を学ぶことが出来た野焼き体験講座となりました。

今後も、このような障害者福祉支援活動としてのアート活動を通じて、“感じる力”と“創作力(ものづくりの喜び)”を育む機会として展開していきたいと思っています。

今回、愛芸アシスト基金支援事業での研究助成費より障害者芸術活動支援事業2022“出前講座”で使用した道具類の購入費、並びに「あいちアール・ブリュット・サテライト展」での解説パネルの作成費等に活用させていただき有意義な支援活動を行うことができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

佐藤 文子(美術学部 陶磁専攻 准教授)

愛芸アシスト基金からのお知らせ

クレジットカードによる決済が可能です。

本愛芸アシスト基金は、金融機関窓口での寄附のほか、クレジットカード決済による寄附ができます。

クレジットカードによる寄附を希望される場合は、下記のURLからお申し込みください。

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/guide/summary/14.html>



※ご連絡可能なメールアドレスをご用意ください。

※本学のクレジットカードによる寄附は、F-REGI 寄付支払い(株式会社エフレジが運営する決済代行サービス)を使用しております。

ご寄附の手続き

1. はじめに、メールアドレスをご入力ください。
2. ご入力いただいたメールアドレス宛に、インターネット納付用URLのお知らせをお送りします。
メールを受け取られてから3時間以内にインターネット納付用URLを開いていただき、手続きをしてください。
3. 画面の指示に従い、必要事項を記入してください。最後に内容をご確認いただき、お申込み手続き完了となります。
4. 寄附金の払込み手続きをします。
5. 寄附は完了します。(最初にご入力のメールアドレスに寄附完了確認メールを送信します。)
6. ご入金のご確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

(寄附金の領収書は確定申告の際に必要なとなりますので、大切に保管してください。)

